

トラックができる省エネ術 ～成功事例で学ぶ工夫と効果～

令和6年度事業概要 & 事例集

経済産業省補助事業（国土交通省連携事業）による「運輸部門エネルギー使用合理化・非化石エネルギー転換推進事業費補助金（トラック輸送省エネ化推進事業）」

本事業では、トラック輸送会社と荷主等※1が協力することを要件に、システム設備や車両の導入費用の一部を支援します。これらの設備や車両を活用し、輸送を効率化させることで消費エネルギーの削減効果を実証することを目的としています。

このリーフレットでは、令和6年度に実施された事業の概要および結果、優良事例を紹介しています。

※1：荷主等とは、この事業では次の事業者を指します。①発荷主（物を引き渡す者）。

②着荷主（物を受け取る者）。③元請事業者（貨物の輸送を請負わせる者）

【補助対象設備・補助率等】

補助対象システム・車両	補助率	補助金上限額等
車両動態管理システム（クラウド型）	定額または1／2以内	上限額14万円/台 ×上限30台/事業者
予約受付システム等	予約受付システム	〃
	ASNシステム	〃
	受注情報事前確認システム	〃
	パレット等管理システム	〃
	パレタイズシステム	5千万円/事業者
配車計画システム	〃	4千万円/事業者
AI・IoTによるシステム連系ツール	〃	5千万円/事業者
ダブル連結トラック	〃	上限額1千万円/台 ×上限10台/事業者
スワップボディコンテナ車両	〃	上限額1千万円/台 ×上限10台/事業者 (荷台上限3基/台)

【令和6年度の事業概要・結果】

■スケジュール

年月日	内容
令和6年6月12日	公募公表
令和6年6月24日～	申請受付開始（複数回に分けて実施）
事業採択以降	各自システム・車両を導入のうえ実運行のデータを取得 ※データ取得期間：荷主連携前後実働10日間以上
令和6年12月20日	事業完了期限 ※一部の公募回は異なる

■補助金交付結果

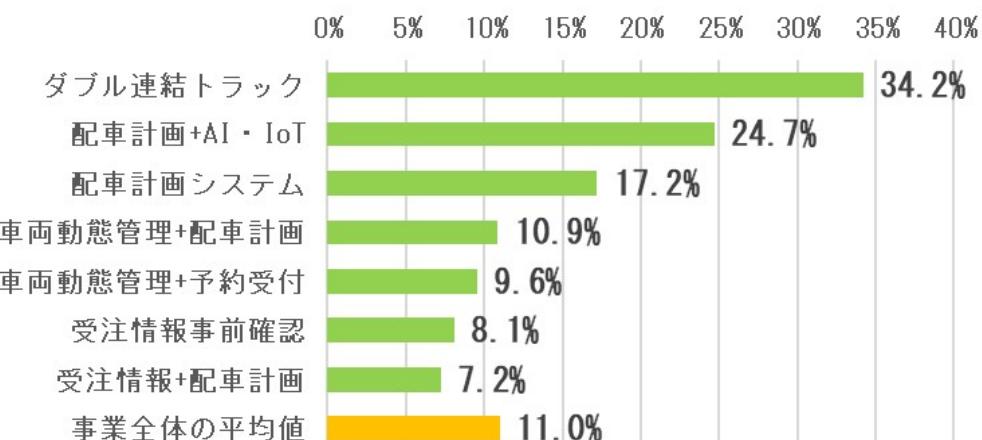
導入システム・車両名	補助社数	車両台数
車両動態管理システム + 配車計画システム	857社	14,730台
車両動態管理システム + 予約受付システム	2社	12台
受注情報事前確認システム	1社	32台
受注情報事前確認システム+配車計画システム	1社	8台
配車計画システム	2社	34台
配車計画システム + AI・IoTによるシステム連系ツール	1社	1台
ダブル連結トラック	6社	30台
スワップボディコンテナ車両	2社	5台

■事業全体における燃料削減量

本事業による燃料削減量（原油換算）：約1.03万kL/年※2

※2：補助事業者から提出の荷主連携前後実働10日間の燃料使用量データを基に、トラックの想定年間稼働日数を250日として算定

■補助対象設備・車両別の燃料削減率※3



※3：取組を完了した事業者の平均値

■R6事例集

①「車両動態管理システム」活用&パレット積へ転換により効率化

輸送品目・形態	日用品・中～長距離輸送
導入設備	車両動態管理システム + 配車計画システム
導入目的・課題	無駄な荷待ち時間の発生、走行距離・時間の増加に伴う燃料消費量の増加

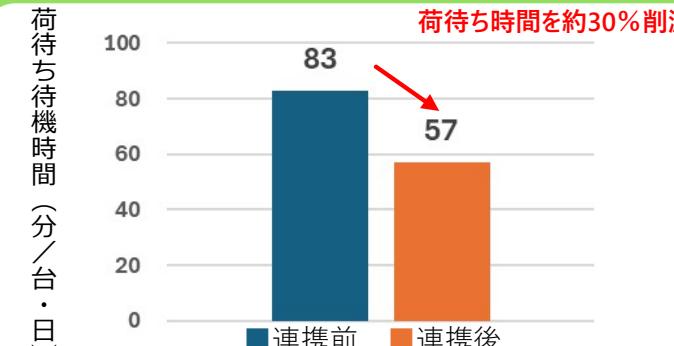
■取組内容

- ・配送ルートの見直しや荷主側の受け入れ体制の変更の依頼
- ・デジタコによる車両の位置情報等をリアルタイムで把握
- ・早着や延着発生時の柔軟な受け入れ対応の実現



■取組結果

- ・荷主やドライバーへの的確な指示・報告の実現
- ・バラ積からパレット積への転換による荷役作業の効率化により、荷待ち時間を約30%削減
- ・車両動態管理システム + 配車計画システムの相乗効果で、燃料削減率9.6%を達成



②共同物流用の「配車計画システム」で事業者間連携の最適化

輸送品目・形態	化学品・荷主
導入設備	配車計画システム + AI・IoTによるシステム連系ツール
導入目的・課題	複数事業者間における共同物流オペレーションの実現

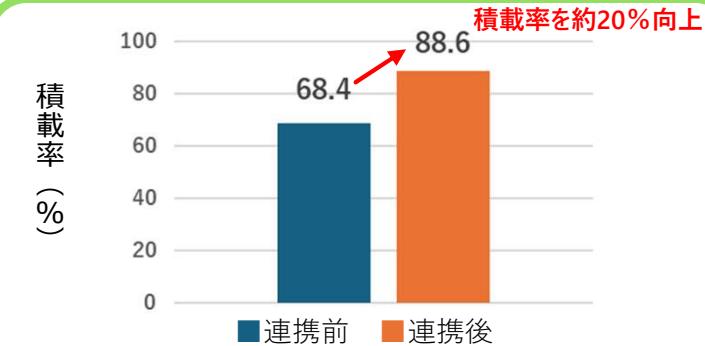
■取組内容

- ・中継拠点で幹線輸送と配送を分担するリレー輸送の実施
- ・複数の物流事業者間での貨物の融通と幹線輸送で混載化の推進
- ・システムの導入による事業者間のデータ連携の実現



■取組結果

- ・リレー輸送への転換と貨物の混載化による幹線輸送の平均積載率の向上（取組前68.4%→取組後88.6%）。
 - ・積載率向上によって燃料削減率24.7%を達成。
- 副次的効果
- ・幹線ドライバーの拘束時間を25%削減（10.7時間 → 8時間）。

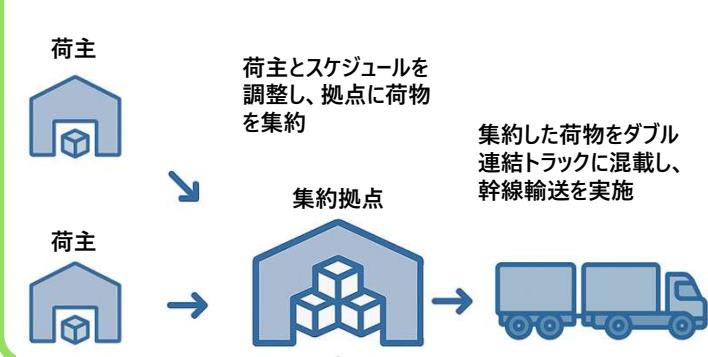


③「ダブル連結トラック」の導入で輸送効率向上

輸送品目・形態	混載・幹線輸送
導入設備	ダブル連結トラック
導入目的・課題	輸送回数の増加に伴う燃料消費量の増加、ドライバー不足

■取組内容

- ・ダブル連結トラックを活用した混載化の提案
- ・荷主との連携による荷物の拠点集約と幹線輸送の実施
- ・ドライバーへの研修・試運転によるスキル習得の支援



■取組結果

- ・輸送に使用するトラック台数の削減。
 - ・一日あたりの燃料使用量を約30%削減（ダブル連結トラック8台導入の合計で、1,755L/日から1,198L/日へ削減）
 - ・燃料削減率34%を達成。
- 副次的効果
- ・長距離運行回数の削減によるドライバーの負担軽減。

